

八十四年三月九日

矢野睦子様におた
手紙の字より

北針きたばりの
本の事について

ミルピタス地区の西に入り居り東側は千七百圓道(ミズフリーウェイ)西側はガレオンに
接し北側はニミセ直路(昔ミルピタス・アルビノ・マウニティンゴ)直路といはれて居り
まじに仲にありまゝの畑はマウドネルドさんの所有地であらう大部分はブルノ川の
オトリチヤードとあり南隣りはオウラウシドにかれど二層を構つて居られた自人の
畑でありました。マウドネルドさんはスタクトン市にオフィスを構つて居られたので
ミルピタスの畑は同じ屋敷界にほわれマウドネルドさんの信任の厚かつた
矢野村の一家が畑の持ち主をやつて居られた其の当時から矢野村は
ミルピタスの村の同胞の村長格として深山のうらやがをこゝろ世話係にあづかつて
居りまゝの事柄は此処に書き印す迄を自ら^明の事柄であつました。
此処に筆削の記憶に鮮明に残つて居ります矢野村墨雄(翁)の御人と成りを
書回し加えて置きます。ある日矢野村が畑で馬使いをして居られた時
時見知らぬ自人のおつがマウドネルドさんの家とたすねて来られたかしくせうに
いゝると家の廻りを回つて見て居られたとせうです。矢野村はふしぎ
に思われ畑から来て何か所用ですかとたすねられました其の時其の御方は
私はマウドネルドさんの弟である船長としてアルゼンチンからの帰り道に船が
サレフランシスコによつたので思はずマウドネルドさんにあつたかと思ひ都合を
してミルピタスにまた船は明日出帆の予定であることせれを聞かれた
矢野村はマクトネルドさんはスタクトン市にオフィスを構たれをちらのうちに居
られます。私が真に御案内をとおるものも取りあはず其の当時はまだ
同胞の御方にはあまり自動車をもつて居らぬ時でありました。矢野村は自介の
自動車でスタクトン市へと向けてきました。遠方であつたので弟は
まだかまなかと聞かれたとせうでありました。やうやうとスタクトンの
兄弟のオフィスに於て何十年ぶりがわい兄弟の会合でありました。
マウドネルドさんは涙を流され此の機会とのがたならは思はるは
一生兄弟に会ふ事が出来なかつたとあつたと矢野村の御心を
なげられたといふ事であつたをせうです。
矢野村の夫婦は御方の御方とあつたを

ロウ今畑の角をロウE.が五英加程と買ひましてナミラギヤス、ライミナル
ステイシヨミが建てられて居ります畑はマルラスのハイオニヤ、エブルさん
家族の所有地であつました。丁度マクドナルドさんの畑の北西の角と
エブルさんの畑の東南の角といふ二三七の道路よはさんで接続した形に
なつて居り、千九百二十年に此の畑のめより旭三千英加余りを小山家と
折に借り畑と二つわけに二セロリを作り神めまこと。千九百十九年には
越賀さんご父がシルガラさんの若り製畑の間にセロリのめん合耕作と
されて居られた時に私の日本からやつて参りました。またアメリカの
折もむなむわらぬヤングでありました。島の頃から矢野村には
ドイツおれの見物だ魚つらたと矢野のママアヤさんが両軒まで南作り下され
つれて行て下されました。事は私の生を通つたれる事のおまなり強
思出となつて居ります。

マクドナルドさんの畑をアスケアたわもの会社が買ひ太平洋山岸のたわわりの
改良々に致しました。時、矢野村は南隣りの自人の畑を借りた其の当時と
ころは他の人々より一歩進んだ商法で自分の耕作物と自分のめりくに満載
算持サシご事の得意先がグツサリに配るといふ事業にお成んで
あられました。千九百二十年に折々の家がばうとんこのハイオニヤ、ババーの家
二世ミス、アリス、ババーさんの遺産の畑を四買ひ引き取りました。処も又
矢野村とは真ぶつた隣りとはなりました。

其の後矢野村の親友の方でホワイトマードに於て農業事業とて居られた
西川氏の發起で西川氏のお隣りの玉田家と西川氏の義弟であられる
柳瀬村の一家カミテの大農中尾村の一家と矢野村の一家のち々と
ふの家と折々の武田村の家が東部を送り出しの秋
ごの耕作。其の頃のシツピングを其の当時サシご日本人の町長格に
あられた岡垣吉太郎氏にシエスラマシヤうになつておもう。二十七年に
あつたウエスタシ、ヒオシ、鉄道会社のシエ下からのシツピングが神ましました
時に矢野村のピタスの本據とは別にカシラセ市の南側方面に
於てピラ作りの大百姓と初めて居られました。

皆だれもかれまもどやと長年の勞苦かむらわれ事業も順調に
軌道に乗るを待ちました矢先には弟を世界大戦となり太平洋岸
三洲の日系同胞の總立區に命令となりなにもかも水戸砲となりました
千九百四十五年春大戦終結にけれ其退命令も解除になりましたので
私も最後の立退き先まよとほつちまよとコロラド州グランドジャンクション
から其者にまよとラスのまよの畑に帰りましたか何かもフルタイムからになり
弟の半分の運給もむづかしくどろしたむりかといふ配をして居りました
九割もなく金米の收容処が閉鎖となりました其の時にはかどが
コロラド州デンバー市附近に自由立ち退きさせられて居りました矢野家
兩門のうちの兩門によづかき事が出来又收容処にお知り合つになつた
うちが年々皆皆づの兩援助を得皆皆が自分自身の仕事に骨身おし
まよの兩援助におつかりました事は物々しいたれも事をまよなり
まよめがまよれた時代でありました皆皆血氣盛んは時代でありました
其の後矢野兩門家はマウソウレンジにより畑をおもとめになつたは
あづかり其の後お引き鏡の門のまよ阿部庄司の遺孀なる人植時に
メロニウに高い使細をおもとめつた事もなつた大なるかりの事をあ
り義兄佐々木良夫氏には兩無理と頼り長の間ホシの重職を引き受けて
頂き又ミセ佐々木氏にはおまよの無理の仕事といは下に長の間兩援助に
あつたまよの事皆皆皆のまよといは何時ともたれも事のまよなり
ありのたりの事でありました

此の度矢野睦子氏より北針の兩本を兩贈りにあづかりました
北針といは彼等の生命を保証する磁石の事であると著者大野芳氏の
兩説明であります内海用漁船天神丸を改造しての密航船により同志十五名の
三男のちまよ北アメリカへと命がけの航海を大正二年五月十日午後十時
愛媛県西宇和郡真穴村中真細代(マヤシロ)の源(源前)といふ漁師の江を出帆された
皆矢野睦子氏阿部村伊井村見根村清原村楠本村の同村のちまよと
隣りの川名津おりの出身のちまよとありますとあづかり
矢野睦子氏より色々といふ親戚のちまよのあま前といふ説明を致すまよ
次頁に書きますしして書きます

石田平助氏 甲七歳 平助氏は伊井氏の赤田りであり大州町

石田家の姓をもらいうけつた書上では石田家の嗣子とあられると

長兄伊井伊知三郎氏は同村の上野葡萄松田三郎兄弟ありも

数年甲子十渡米をこころあられたる此の伊井伊知三郎氏は

伊井淳氏と妹柿の矢野睦子松方の祖とあられると

第八頁と第七十三頁に

よしの付と人天性の社交家であられた石田忠^{オカシ}氏は古沢寅治氏の

まやチ氏の弟と寅治氏の異義弟であられると

おる十四年三月ホ者日 佐々木良夫氏而夫婦の揃いで南孫郎の同道

拙宅を御訪ね下さりまことそれけ現在真細代で兩余生を御送り

なて居られる而老母佐々木良恵氏の八十の御親にミセ入とあり

五月をわかぬ又同じく故郷に余生を御送りにはこそ居れまし九十歳

ミセ入佐々木氏と阿部庄司松方の而老母氏の御訪問に行かれての

而事サンにせは御滞りになりわごわごわ御土産をもちこの御下宿する御訪問に

とあつからまこと

其の時佐々木良夫氏より佐々木氏の御宅は石田忠氏との最

所近り御身ゆであられるとありまこと

第二十一頁

真細代の阿部大三郎氏が立間村お加加城金吾氏から

三百本の温州密柑の苗木を譲り受けられてそれを阿部庄右衛門氏と

吉川喜次氏とに分け与えられたこれが真細代での温州密柑の

発端ゆである。阿部大三郎氏は当地の阿部庄司氏の祖と

あられ又矢野家お近りの親戚とあられるとあり

佐々木良夫氏阿部庄司松方には大ニ大戦終結立退命

解除になりました当時松竹のまじりメスの畑の重要なポイントに立ち

御援助にあつかりました御文書はさういふあられる事日前の御方の真

書^{オカシ}より記して頂いて居ります

第百二十二頁

当時十歳であった見根勝重氏は新の買出しに借馬船を漕いで
来るところだつた時源道前に妙な形の二本マスの打頼がおいてあつた
この両方が当地の矢野村の門の見根氏の兄上であつたとの事

第百二十五頁

佐々木栄恵郎の両名前が出て居ります前の方にも一度書きました
されてありますが佐々木良夫郎の両老母であつた戦後一度ころうえおいて
なうた時ミルピタスをおたずね下され両目にかつて居ります其の後
阿部庄司郎の両老母もころうの皆おうちの両訪問においでの時
乳母の処えまでもおたずねしたので居ります

第百二十四頁

松浦有教郎は当地の佐々木良夫郎の弟郎であられると書いて下

第百二十五頁

曲長協理事長曲長学博士小笠原佐代市氏は佐々木良夫郎の
妹郎の夫君であられ牛葉果松子の高竿園執事大先輩
曲農事試験場柑橘試験場の友部長であつた時研究視察に
向渡果の時佐々木良夫郎と共にミルピタスと両訪ねにあつた
まことに所方と同じ所方であられると矢野睦子郎より承りました

第百二十八頁

立間村は最初に温州密柑を植え始めた村であるとして下
真綱代から八里程はなれて居る村だとして居ります

第一回以来農村青年実習生奨励果代表であつた船中で
怪我をされたため実習に困難とされた時矢野郎が親身となつて
両世話をしあげられました富本氏の村でありますとして
此の記録を載せました北針の両本の中に綱をまして永く記念として
大切に保存をさせていたたきます。ありがとうございました

一九百十四年四月十五日記す

武田昌二

去るル十四年六月十四日矢野睦子様のお来訪を受けました
是れは正義息井上氏がワシントン州のシヤトル市方面での仕事に
行かれ仕事の終つた帰り途サモンのフィッシュングに行かれて
釣りがけられた新鮮な美事なサモンをとわがわがの両届けに
あづかりました。

知がピーコンパニーの成り立ちや又長らくの近所に住いと致し居り
其の間色々と数々の両世話にあづかりました。

矢野龜雄翁の両人なりと西門のさうの思い出を筆を書き綴り
睦子様に御目にかけておきました。

此の度の両訪ねの時に マラドナルドさんの事につき私のまだ知らなかつた
事を睦子様より承りました。それと所聞を致し私に

矢野様事なればなにもありなんと感激を致した次第でありました。
それでこれは前の記録の追記として是非お書き加えておかげほど
両に此処に筆をあらせて戴きました。

矢野様はマラドナルド様から絶大の信任を得て居られました事は
前の記録にも記させて戴いて居ります。

マラドナルドさんには一人の両子息様があられました由で

第一世界大戦の時には海軍に入り將校として参加されたので
海軍將校としての肩書きをもちであられたと聞いてあります。

マラドナルド様のサンセ地帯の名士の如に数えられて居られたおかげと
承つて居りました。

マラドナルド様がおなごなりになり其の両花守式の時には私も
参列させて戴きました。

矢野様のとめどもなく涙をながされこかなしんで居られました
さまを私の今もよくおぼえて居ります。

マラドナルド様の御遺骸はあのオウヒルの山の上の真鍮な
建物の中におさめられあられ九天井の下に最後の告別の式か
いとなまれました。

此の度睡子くんより喜びました

マラドナルド様の遺言状の仲にミレピタスの煙は

矢野の御へ家に贈るとありましたとどうでしょうか

其の當時は一般には排日の気風の吹き荒れて居た時だれもかれも
暗い思いを致して居りました時代でありました

マラドナルド様の矢野様に對された御行動はこれは無類の
事柄であつたと信じます

矢野様はとんと考へられてから御遺族とミセスマラドナルドさんと
御子息さんもあられるので畑の御遺族の方々に渡るべきである
御遺族を御してしまわれなとどうでしょうか
此処にも又矢野様の日本人としての古来より傳承された
事柄にちろが輝いて居るのでは ありませんか

ミセスマラドナルド様おられたる感動された事でござんまじやう
其の後御死の毒にも御子息様の事が先に若死に亡くされて
しまわれ 御葬式は海軍葬によつてでありましたとどうでしょうか
御棺は米国家より贈られました 星條旗によりカワイさを
これに居りましたとどうでしょうか

ミセスマラドナルド様が御葬式の後矢野様になにもあなただに
差こするものがなすが此の国旗をメモリーとしてあなただにあげますと
矢野様に御渡したにあられたとどうでしょうか
なんと御子の御話してはありませんか

終りに一筆書きたるをよめて戴きまじ
長らくの間数々の一世のバウオニアのうきが
和馬民族の先頭に立られ

此の隙を奪ひ去る石と一ツツ岩の力となり竹葉をよ
行く下されまじる西落により(昔と思ひ今を知り)

今日の同胞の向上を望む所のまじを思ひ
此の事いぶる石の一ツにおなり下されまじる

天路を走雄命の而遺徳を思ひ
此処に輝きまじる記をよめて戴きまじる

八雲

千九百廿四年六月十七日

フツサノスデーの日に記す

武田昌二

先日はわざわざわざわざの処まで来て下さるのを知りて嬉しいな
新鮮なアモこの頭付きのバスターの前を深心した
頂戴致しませうとありがたうございませう
市場では仲立ちをたつた油の味を居て居る
のにおいさいせも家で申して下さるはなりました
煙をたらぬ私申上ませう

其節お聞き致しました矢野師のオジイさんの
事つなはりの言葉と筆とで書き綴りなした
両目にかげようと本日お郵送申上て置かれました
おや天竺人さま

昭和四年六月十九日

目録

睦子除

矢野睦子様

八十四年四月十日

武田日三

先頃は色々とお重ね重ねの御心遣の
程とありかとうござりませぬ、

中貝女邸からの御説明にあづかりました、

御親戚の方々の記録と書きさそえ

させていたたき、戴きました北針の

御本の仲に締めて置く事に致し

ました其の御事と御目にかけます

ありがとうございます
合掌

下、かえし

先日は私の北十三歳の誕生祝にと心をこめて御作り直しされました
けつこうなる御料理を川原様の御子息様が御作りにな
られたといふ事、美事なうつわに盛り上げてのぞむとおたづね
にあづかりまして心より御礼を申上げます。
お心も少しは有難く三回に渡りごちそうになりましたありがとうございます
ありがとうございます。

其の時おかしな事になりました北針感謝をもつて読ませて
頂いて居ります。子供の間よみ学校で海国男子と

いふ言葉でも聞かれましたも信州の山の中海を知らぬ者には
心にぴろりと来ないのであります。だが此の度此の御本を
読ませて頂きますとほんとうに海国男子としてこの心もちが
はつきりと教へました。

同志十人の方々の命がけの航海しかも同行のすまじである
事本のゆかりをいふと来る御名前には皆なつかしい
御名前ばかりであります。これと皆探訪の長い間の郷土に
おかれての御塔わられましたお心持が輝いて居ります。これは
永久にほこりをもちて言ひ傳へらるべき事柄であると思ひます。
今よりおかり致しまして幾度も読ませて頂きます。か
つて御一讀の度と申じて居ります。御疑知をわがります。
まて来るまじ御名前は皆探訪の御関係があるのではと思ひ
書かして見ました。何れかの御説明をわがら度と思ひ
同封を致しました。

一筆遅れたら謹んで御礼申上げます。合掌

北十四年三月

北田四郎

矢野睦子様

幾度見ましても見あきさる事のない美事な字と眞の揃ふて居ります
よりの本を、お貸し下されまして有りかとうござりました

信州の山々の深山生て居りますので自分の知つて居ります山々の事を
此処に書き出して見ました

京都より西の方の諸国の山々ことに九州の山々は土地と氣候などの關係でむ
ちりまこよらか美事な山々が深山あります事と神めて居りました。

字と眞を見ましの思出

百四十二頁にのせてある木曾の御岳は物共の字かうは見えませんが

山頂に御岳神社があり物共の村からも御岳講の人々がおまわりに行く

山であります山頂は寒くがまびしく昔の事でありましたので養殖の時に

まゆをのれる時に使つた日本紙を幾枚も張る合はせて作りました人が仲に入る

事の手まゝ丈夫な紙袋が軽いのでもれとたんでもつて行きます其の仲には暖く

食料はもちとつと砂糖をのれると何時迄もかわらなく又水と豆をいり上げ

ほし柿を作る時にむいた皮をほしておくと白粉がふき牛一廿のうでそれもまて

石臼でひいた物炊の人は香せんといふて居りますすがそんな物もつて行て食糧にした

おとえあれば間に合ひ番便利なものだと言ふの古来の方々の説明であります

地図ののつて居る二百ホ一頁物共の村から西側に見える連峰の説明

地図の上に長野と書いてある右側に飯^{イヅナ}・黒姫^{クニノ}・妙高^{ミタカ}・戸隠^{トカク}・今一ツ此等はまて

居りませんが四百十頁の日本山岳位置図にまて居ります飯ツツ山のオオチノ川に

斑尾山(マドロ山)と炊の人はいふて居ります此の奥の岳が物共の炊かう千曲川^{チクマ}の

西側はるかには真面にまて居ります並んで居ります此れを西の五岳といふて居ります

四期それそれには美しき景色を見せられて居ります

夕焼け時のすばらしい景色等今でもまて居りますので深びよつてまて居ります

妙高の山は特に神神といふ女を見せられて居りました

百ホ七頁と百八頁にかけて此の山々の山々を算がもて居ります 又

二百ホ一頁の地図のところに妙高火山と隠連峰とある然に説明されて居ります

四百十頁にある日本山岳位置図関東中部の地図を見ますと

牡丹の処から一番近り東山連峰上信越高原国立公園と書いて記されて居りこれを志賀高原といふて居ります湯田中とあるのは山のや温泉郷のついでありついで中野とある居る処が牡丹の処であります

二百十九頁の地図の説明 地図の左側中央に長野と書いてある側にも志賀高原と記されてあります此の山ふところた山のや温泉郷といはれていつもの温泉場があらますが其処がう山の仲に分けていつもの温泉がわきまを居り此人の白根山はまだ煙のくすぶて居る火山でありすがその内には萬座温泉といふ昔は軒しか宿屋がなく其の先の方山脈がうまた処に群馬県の草津温泉があら長野原を通り前橋中に致る昔から馬の通水る道が開かれて居りましたえと前橋街道といはれて居り牡丹の村の上の夜間瀬橋が前橋街道
→丁目の起点であります

小学校の遠足の所此の山の道の道を歩いて萬座温泉でじがごろわの一角をしましたか宿屋のすぐ側と大きな湯川が流れて居り皆で其の川の仲に入り足を洗つて宿屋にのりましたか宿屋と荷を運んで来た馬も一匹は川の仲で足を洗つてもらひ喜んで居りました事もよくおぼえて居りますそこから白根山の中腹を通り草津温泉まで行って帰りました

今ついで二百十九頁の地図の左側の長野と書いてある下の方に菅平とありますこれは牡丹の処から真南に見えます言向原であり此の山の仲で出炭スミを作る出炭たき小屋からます々に立ち登る煙がよく見えた事も子供時代のなつかしき鬼のことなつて居ります

四百十頁の頁中に関東中部とあります地図の仲の上信越国立公園がこゝ処に別れてあります東側が志賀高原といふそれから西のうに又赤い点のついで記され其の仲に上信越高原国立公園とありますのが牡丹の処から真西に走ると居る西の山とつられて居る連峰であります

今一ツ四百十頁中にあります西の五岳のある上信越高尾国立公園と
ある下のちに長野と書いてある処が日本皇位の一番古い所手である
善光寺のある長野市であり両手の善光山を城山シヤキヤといひて居ります
此の長野市から見る西南にかけて中部山岳国立公園と赤い点々のある
一番下のちに奥穂高とあります。此処が穂高連峰のある処であります
百十五頁から深山此の山々の字に真がと居ります
二百十八頁に穂高と穂高連峰と記された処に説明をされて居ります

知吾の処から再南に見える高平ツカガヒラの山の中ツカガヒラの山頂たき小屋のある山をみと
西の五岳との間の平原を河野川が北に流れて越後の国に流れを行き
南へももけて益々廣く善光寺平原が現れて行き、其の仲を千曲川が
おびの指だらうわらわとして流れて居る所が、知吾の紅日海抜千尺程の
高尾にありますので雨天気の時にはけるかにながめられますが其の南の方の
けてに依り山々が重なり其の又奥の方雲の上に山頂に雪をいたたりた
穂高連峰がたりなり特に槍ヶ岳ヤリガタケが槍の如くに雲の上につき上つて
居る所が雨天気の日はけりかにながめられました
皆なつかしい字と書いてあります

知吾の中野から善光寺までは百里程であると思ひますか
善光寺の城に登ると雨天気の日は本家の屋根敷ぬにありきた
大杉の木が見ゆられたと又か聞いて居りましたかゆがうつろになつて
来ましたので切られて今けなうはつてのぢやありません
どうも御本とあるかどうかいまいた

ルキ五年四月

白田

睦子様